

新たな取組み「防災カンガルー★すずか」

三重県 鈴鹿市防災危機管理課

1 はじめに

鈴鹿市は、防災啓発等において、参加率が伸び悩む子育て世代・若い世代への防災・減災の関心や共感を高めるため、本年5月から「防災を楽しむ、防災はオシャレ」の視点で普及に取組む「防災ガール★」と連携し、子育て世代のママへの防災啓発プロジェクトをスタートしました。

本プロジェクトのターゲットは、家事・育児により、防災講演会や自主防災隊訓練への参加が難しいお母さんたちです。特に、幼児を抱えるお母さんたちは、昼間に長時間外出することが難しく、私たちはこの問題を解消することから始めました。

具体的には、女性団体を所掌する男女共同参画課と連携して、お母さんたちが安心して参加できるよう託児の環境整備を開催毎に取り入れました。

また、10月からは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の支援を受け、「20～40代の女子（ママ）必見！減災力じぶんごと化プロジェクト」として進行しています。

最重要テーマは、減災に向けた「じぶんごと化」、すなわち、「お母さんたちが、防災減災対策を自分のこととして捉え主体的に取組む」というスタイルづくりです。

多くの場合、公的機関が主導しないと自助が進まない、普及が難しいことが全国共通の課題でもあります。

そこで、本プロジェクトでは、当面の企画こそ行政が担いましたが、後のアイデア出し、体験等の立案や運営は、「参加登録するお母さんたちが主体的に進める」というスタイルに移行しています。

ここでも、単なる参加ではなく、「チームへ登録する」＝他人事にせず、自ら考え動く「じぶんごと化」が図られます。

なお、行政は、登録されたお母さんたち（10月現在10名）への助言、運営協力の立場で携わっています。

したがって、現時点で既に終えたイベントを含め、今後行う予定の「避難訓練」や「防災減災ハンドブック（仮称）」の作成等は、登録されたお母さんたちの手によって進められます。

先月、参加登録するお母さんたちのリーダーが決まりました。また、お母さんたちが意見を出し合い「防災カンガルー★すずか」とチーム名を決定し、今後は「防災ガール★」とも連携していく予定です。

チーム名は、防災を主体的に考えつつ、カンガルーは大事なわが子を抱えた姿を連想させ、加えてキャラクターやロゴが作成しやすい、との理由から命名されました。

2 事例の紹介

本プロジェクトの活動のうち、「非常食の試食体験」と「避難所生活体験」の2つを紹介します。

1 非常食の試食体験

8月4日（火）12時15分から約3時間半、非常食の試食体験等を行いました。

東日本大震災時、水の備蓄が伴わないためアルファ米が食べられなかったという教訓から、アルファ米に身近な飲み物を代用、お湯のほか、野菜ジュース、コーラ、緑茶、オレンジジュース、カルピス、麦茶の7種類で作り試食体験する、というものです。

その中で、多くのお母さんたちはアルファ米を作って食べるのは初めて、ということで、袋を開け、乾燥剤を取り出し、水分をこの線まで注ぐ、と初歩的な作り方を学ぶことからのスタートとなりました。アルファ米ができるまでの20分間は、被災時はお皿を洗うことも難しくなるため、サララップを活用することで食後の洗い物を減らし、食べ残しを捨てる際の匂いも密閉できるな



ど、身近なものを代用できることが話し合われ、普及啓発につながっていることを実感しました。

試食や審査はお母さんやお子さんたちが行い、大人と子どもは味覚（好み）がかなり違う、ということにも驚かされました（大人は、野菜ジュースや麦茶、緑茶で作ったアルファ米を好み、子どもはカルピスで作ったアルファ米が一番美味しいとの評価でした）。



非常食の試食体験

2 避難所生活体験

10月17日（土）10時10分から約2時間、避難所生活体験を行いました。

避難所は行かなければならない場所ではありませんが、行った際の課題を見つけようと企画されました。

具体的には、ブルーシートでパーソナルスペース（避難所で自分が確保できる実際の広さや隣の人との距離間）の体感、ロープワーク「ひとえつなぎ」「本結び」、市販の携帯浄水器での実験、災害時の簡易トイレの装着・体験を行い、被災時の、居る（生活スペースと知恵ロープ）、食べる（食・水への対応）、出す（我慢できない→備蓄トイレ使用）など、「じぶんごと化」に向けた気づき、きっかけに重きを置いた体験となりました。



パーソナルスペース体験



携帯浄水器での実験



ロープワーク



災害時の簡易トイレの装着

「自分と子どもを守るために、自らが備える」、「被災時には、迅速に初動行動をとるほか、備えを活かす」、「そのためには、今、何をどう準備すべきか等情報共有」、これらは、知識以外にアイデア出しと体験が重要であると、私たち行政も改めて感じたところです。

今後も「防災カンガルー★すずか」と連携を図り、鈴鹿市の防災減災力を高める施策を推進していきます。



集合写真